

日系サポーター体験記②

日系社会研修（多文化共生推進/日系協力型）
通称「日系サポーター」研修
「在日日系人コミュニティの活動支援」コース

帰国研修員 ガルシア ヘススさん（メキシコ）

活動期間: 2022年5月～2023年3月
活動先: 多言語センターFACIL（兵庫県）



ガルシア ヘススさんは今回初めての日本渡航で、兵庫県神戸市にある多言語センターFACILで10か月間、在日日系人への支援・情報発信のサポートを行いました。

多言語センターFACILではどのような活動を行いましたか？

主にマーケティングやデータ分析の知識を使いながら、「Latin-a」という在日日系人向けにスペイン語で情報発信を行うメディア（ウェブサイト、ラジオ番組、情報誌）の支援活動を行いました。また、在日ラテンアメリカ人の子供向けのスペイン語教室でもサポートしていました。





ヘススさんの知識や経験を活かしながら、どのように神戸の在日日系コミュニティへの支援を行えたと思いますか？

「Latin-a」では、メール配信システムやウェブサイトのメンテナンスなど、情報発信のために働く方々のためのサポートをしていました。

また、SEO（検索エンジン最適化）・データ分析などの知識を活かしながら、スペイン語での情報を必要としている人々に知ってもらえるための工夫をしました。スペイン語教室では子供たちと話をする機会があり、例えばクリスマスの時期には「メキシコでの祝い方が知りたい」のようなクエストがあり、子供たちは南米の文化にとっても興味を持っていました。長く日本で働いている方々からは、移住してきた当初の悩み、カルチャーショックや新しい生活習慣に慣れるまでの難しさなどについて聴く機会がありました。

初めての日本、また在日日系人コミュニティを知る機会となりましたが、どのような発見がありましたか？

日本に住む日系人の子供たちに、アイデンティティの悩みがあることを初めて知りました。元々住んでいた国では自分を「日本人」と意識していた人も、いざ日本に住んでみると「ラテンアメリカ人」であると感じるようになったという話や、差別を受けることもあると聞きました。日本から南米に移住した先祖の歴史や文化もそうですが、日本で生まれ育った日系人の子供たちにとってラテンアメリカの文化を知ることが、彼らにとっては大事なことだと理解出来ました。また、「Latin-a」の情報誌に掲載する情報を探しながら、在日日系社会にとって重要である日本の法律、防災、ビザの手続き、文化、教育などについて詳しく学ぶことが出来ました。

日本に住む在日日系人の子供たちを支援していく中で、どのような課題があると思いますか？

日本語が分からないため、学校生活に慣れない子供たちがいます。南米のほとんどの学校では義務教育でも留年する可能性があります。日本の小中学校に留年はありません。そのため、学年が上がっても授業が理解できないまま学校生活を送ることになってしまいます。また、保護者が学校の行事に参加したり、先生とコミュニケーションを取ったりする事も大切だと思います。

今回の経験を活かして、今後どのような活動をしてみたいですか？

メキシコから、情報発信や新しいコンテンツを制作しながら「Latin-a」のサポートを続けたいと考えています。また、横浜の海外移住資料館を訪問してから移住の歴史に興味を持ち始め、その後メキシコへの日本人移住について調べていました。チアハ州とグアナファト州に日系人コミュニティがあるということを知ったので、今後メキシコ国内の日系社会と繋がり、日本での経験を共有したいです。



日系サポーターとは

日本国内の日系人集住都市に中南米から日系人をJICA研修員として受け入れ、保育園・幼稚園・自治体・NGO・企業などで研修を受けながら、在日日系人のために日本語/母国語サポーター、ソーシャルワーカー、相談役といった役割も果たし、在日日系人のサポート、日系人集住都市の多文化共生・地域創生に貢献する研修です。